

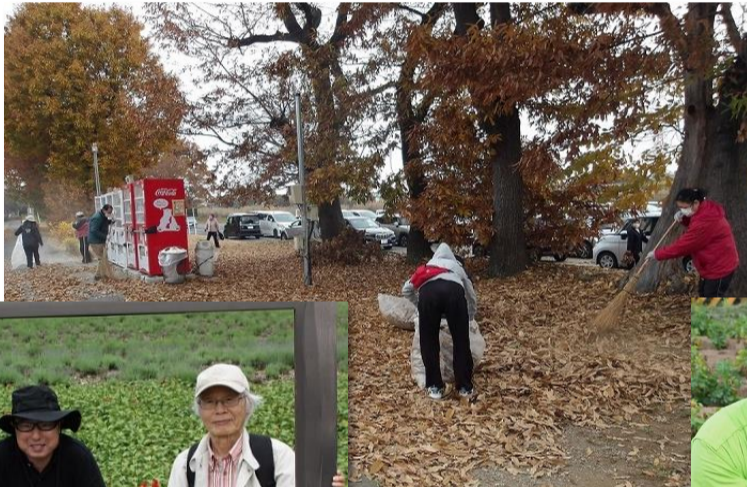
「ZAIDAN Report」第5号では、「ひな」様の活動をご紹介します。

当財団の2024年度事業助成により、老朽化し修理不能なレベルにまで故障してしまった「土寄せ機(ねぎ管理機)」を新規購入することが出来ました。これにより、作業の負担軽減や効率化にとどまらず、作付け量を増やすことで、収入の増加につながることも期待できそうです。

「ひな」様についてご紹介

- 埼玉県岩槻市(現さいたま市岩槻区)には精神障がい者のための施設がなく、その設立のために「作業所設立準備委員会」が立ち上げられ、保健センターをはじめとした行政機関、家族会、ボランティア、近隣の福祉事業所などの協力を得て、2004年7月に旧岩槻市初の精神障がい者施設として「精神障がい者小規模作業所ひな」を開所しました。
- 1年目はペン立て作り、絵手紙、折り紙、スポーツ、レクリエーション、学習などのプログラムが主な活動でしたが、2年目より作業を開始。はじめは自動車部品等のゴム製品のバリ取りなど室内作業を行っていましたが、公園清掃などの外作業も行うようになっていきました。
- 「小規模作業所」から「就労継続支援B型」に移行する事となり、2009年2月に「特定非営利活動法人ひな」を設立し、2011年12月に「作業所ひな」を開所しました。
- 現在「作業所ひな」では、主に一般企業での就労が難しいと思われる精神障がい者や軽度の知的障がい者の社会参加を目的として、非雇用型の就労機会と合わせて、仲間との交流、日常生活訓練等の場を提供しています。
- 具体的には、就労支援として農作業、野菜の袋詰め・納品、野菜等の販売イベントへの参加、駐車場・公園清掃、自動車部品等のゴム製品のバリ取り、割り箸・おみくじ袋詰めなどの作業を行っており、さらに日常生活訓練等として、創作活動(編み物製品作成など)や外出・外食プログラムなどを行っています。また、季節の行事として、お花見、クリスマス会、初詣なども行っています。

【外作業】
(公園清掃)



【室内作業】
(ゴム製品のバリ取り、割り箸入れ)



【役員のみなさん】



【松本 翔 代表理事】

ウェートを増してきた「農作業」

- 小規模作業所開所以来、内職作業や清掃などの請負作業をメインとしてきましたが、自主製品を作って販売してみようということになり、野菜の生産・販売をはじめました。
- 2015年に農業指導のできる方に依頼し、はじめは園芸活動のような形でスタートしましたが、少しずつ借りている畑を拡大して様々な野菜を作る事ができるようになりました。
- そして地元のスーパーに地場産野菜として出荷する事ができるようになった頃には、利用者に内職作業や清掃などの請負作業と同じくらいの工賃を渡す事ができるようになりました。

今回の助成応募の背景

- 現在、農作業関係が最も売上げの多い作業となっており、作業の効率化や労力の軽減のためにいくつかの農機を使用しています。
- その中の「土寄せ機(ねぎ管理機)」は、好意で貸していただいていた農機で、防虫ネット取り付け、ねぎ類やイモ類などを作るための畝作り及び土寄せを行う等のために使用していましたが、とても古く、何度も修理を繰り返しているうちに、とうとう動かなくなってしまいました。
- このため、ねぎ類やイモ類などの畝作り・土寄せ・除草を手作業で行う事になりましたが、かなりの労力がかかり時間も人手も必要となったことから、春のサツマイモの作付けが予定の3分の1程度になってしまい、夏のねぎの植え替えも予定通り行うことは、もはや不可能な状況でした。
- 中古で安く購入することも考えましたが、今までのように何度も壊れて修理を繰り返す事になれば、結局は、かなりの手間と費用がかかってしまうため、修理をせず長い間使えるように新しく購入したいと考えました。しかし当法人にそのような金銭的な余裕がないため、助成を申請することにしました。

新・「土寄せ機」の導入による効果

- 新しい「土寄せ機」が納入され、ずっと行うことができなかった「ねぎの畝作り」「ねぎの土寄せ」「里イモの土寄せ」「菊イモの土寄せ」を遅れながらも行うことができました。ギリギリ間に合ったというような状況で、何とか収穫・出荷できそうです。
- 実際に使用してみると、今までの土寄せ機よりも操作方法が簡単で、同じような大きさでありながら明らかに軽い操作感覚でした。エンジンをかけるものも簡単で、今までよりもだいぶ楽になりました。
- 農機なので、操作ミスによる事故を防止することが何よりも大切ですが、今までの物よりも安全性が高いように感じます。気軽に購入できる農機ではなかったため、助成をいただき助かりました。

【購入した土寄せ機(ねぎ管理機) ※クボタ管理機FTN800-Y】



【里イモの土寄せ及び除草】



【ねぎ植え替えのための畝作り】



【ねぎ植え付け用の畝完成】



【ねぎ植え付け】



【2度目の土寄せ完了(植え付けから2ヵ月後)】

今後の抱負など...

- 今までのように、修理に手間がかかって結果的に時間がかかったり、手作業で労力や時間がかかってしまったりする事がかなり減りそうです。今後はこの「土寄せ機」を使って、作付け時期を逃す事なく季節に応じた野菜作りを行っていきたいと思います。
- ねぎ類やイモ類などの畝作り・土寄せ・除草の時間短縮が見込めれば、ねぎ類やイモ類などの作付けの量を増やしたり、それ以外の農作業に時間を割いたりすることができそうです。その場合、収穫量の増加が見込めますので、販路を増やして野菜の売上げを伸ばし、利用者の工賃を向上させていきたいと思います。
- 今回の助成を受けて、今まで作っていた「岩槻ねぎ」の作付け量を増やす事にしました。さらに今まで作らなかった新たな品種のねぎの作付けもはじめました。



【農作業担当の長谷川 恵一 理事】